



ななかまど Vol.34

北海道情報大学 入学式



写真：平成17年度入学式

目次

■学長就任あいさつ..... 2	■ゼミ紹介.....14
■副学長就任あいさつ..... 3	■クラブ紹介.....15
■平成17年度入学式..... 4	■ドイツ企業に就職して.....16~17
■新入生ガイダンス..... 5	■Yosakoi ソーラン.....18~19
■新任教員あいさつ.....6~7	■後援会より.....20
■体育祭.....8~9	■学生サポートセンターより.....21
■海外研修記(1).....10~11	■財務報告.....22
■海外研修記(2).....12	■新施設紹介.....23
■ピースポート.....13	■主要行事等.....24





『大学冬の時代』を生き抜くために—

学長 井野 智

国立大学の法人化、18歳人口の急減、実績評価と競争原理に基づく文科省の助成、第三者評価など、私立大学を取り巻く環境は厳しくなる一方である。

16年前、日本で初めて“情報”の2文字を大学名に入れて生まれた本学は、他の追随を許さぬ最先端の教育環境を整備しながら、不況が続くなかで、全国的に見ても私立大学では上位に位置する高い就職率をあげてきた。

本年度から経営情報学部・同通信教育部、情報メディア学部ともに新カリキュラムに移行している。新カリキュラムは、情報メディア学部完成年度以降の適用を念頭に、時間をかけて検討してきたものである。

このような状況下で教育研究の一層の充実を図るべく努力を重ねてきたが、競合大学の類似学部・学科の設置などもあり、本学の学生募集環境は年々厳しくなりつつある。高い就職率を誇り、卒業生の社会的評価も悪くない本学がなぜ敬遠されるのか、その原因解明と対策が急務となっている。

よく指摘されるのは、学生、とくに1年生の大学満足度が低く、これが出身高校の本学に対するネガティブな進路指導に繋がっているのではないかと、という疑念である。全国規模で学生の満足度調査を最初に実施したリクルートは、大学満足度に与える影響要因を「教育内容」「学生生活」「(学内の)人間関係」に分類し、「人間関係」がもっとも支配的であることを明らかにしている[工業教育Vol.53-3、2005.5]。

新しい環境に戸惑いがちな1年生が友人・先輩・教職員との良好な人間関係をキャンパス内で得る格好の機会として、学生実行委員会が主催する「体育祭」と「文化祭」とがある。両行事に対する認識を新たに多くの学生と教職員が積極的に参加してほしいと思う。授業を通して学生同士が教え合うグループ学習や、先輩が後輩の学習を支援するSA制度の充実、課外活動の活発化など、良好な人間関係の構築に役立つ仕組みは幾つも考えられる。

本学志願者が増えないのはオープンキャンパス、大学見学、英語弁論大会などで訪れる高校生や引率の先生や保護者の方々にあまり好感をもたれていないのではないかと、というのが二つ目の指摘である。

次の文章は、米国のある女子高校生が進学先を決めるために親子で訪れた大学の印象を綴った母親の手記の一節である[リンダ・アイヤー、リチャード・アイヤー共著：子供たちへの最高の贈り物【価値観】(邦訳/キングベア出版、2004.11)]。

“礼儀正しさ、それも期待される以上の礼儀正しさ、心からの優しさ、親しみやすさが、大学の伝統のようだった。誰もがきちんと挨拶し、通りすがりにも笑顔を向け、視線を合わせた。それは学生に望まれる理想的な態度であり、学力や施設の評判よりずっと強い、温かい印象を残した。”

野幌原生林に囲まれた美しい自然環境、体育施設を散りばめた広々とした敷地、マリンプルーの瀟洒な校舎、キャンパス内を行き来する学生・教職員、いずれも北海道情報大学の景観を構成する要素である。とりわけ学生・教職員一人ひとりの服装や表情や動作は、空間の印象を大きく左右する。

学生は毎日大学に来て授業に出席し、空き時間にはラウンジで談笑したり演習室や図書館で自習する、放課後はクラブ活動でグラウンドや体育館やサークル室が賑わう、講義時間だけでなくいつも研究室には教員がいて学生の質問や相談にのってくれる、学生・教職員同士はもちろん外来者にも挨拶できる、そんな活気ある風景が日常となる大学となってほしい。

大学冬の時代を生き抜くため、平凡ではあるが、すべての学生が社会で活躍できる力を付け、「この大学で学んで良かった」と誇りをもって卒業していく、そんな北海道情報大学となるよう、できることから手をつけたいと思う。

本稿をお読みいただいた皆様のご理解ご協力ご支援をお願いする次第である。

優秀なIT人材育成に邁進

副学長 嘉数 侑昇



北海道情報大学では、本年平成17年度から新たに副学長の制度が設けられ、4月から私、嘉数が副学長に就任させていただくことになりました。よろしくお願いたします。

まずは恒例によりまして、簡単に自己紹介をさせていただきますたく思います。

私の生まれは南国沖縄で、大学は琉球大学の機械工学科を卒業いたしました。勉強がそう好きでなかったものですから、浪人生活が長く大学を卒業するときは、すでに26歳になっていましたし、大学もほとんどサボりの状態でしたね。思い返すと何のための勉強かわからなかったし、わかる努力もしませんでしたから。1967年の春、縁あって北大助手を務めることになり、北帰行ではありませんが、船で鹿児島に上陸し汽車を乗り継いで、2週間をかけて4月16日に札幌着。妙な話ですが道路沿いの残雪が薄汚れていたのを鮮明に記憶しています。当時は石炭暖房の時代でしたから。

さて、北大の助手になってみると、自分のすべてのレベルは、如何に低いかということを知らされる連日でした。何しろ英語、ドイツ語はもちろん数学、物理などをはじめとして、専門分野の論文など全くチンプンカンプン状態。目覚めましたね。これじゃいかんと。今でも恐縮しているのですが、教授先生をはじめ皆様にご無理をお願いし、助手を辞めさせていただき、北海道大学の大学院を受験、運良く入学、よく学びよく遊んで博士課程修了、その後旭川高専に助教授の職を得ることができました。沖縄からするとより遠い北のほうへ北帰行したわけです。このままだと稚内あたりまで行くのかなと。

残念ながら北帰行も旭川止まりで、その後、北大に呼び戻され、助教授、教授時代を経て本年3月をもって北大定年退職に至った次第です。

この間、北大の同僚を始め、研究活動を通した内外の多くの研究者や、研究室のたくさんの優秀な学生諸君に接することができました。また、産学連携事業を主務とする北大先端科学技術協同研究センター長、北大大型計算機センター長や東大併任教授などを勤めさせていただきましたし、大

学のみでは得られなかったかもしれない

多くの方々との出会いや、貴重な経験をさせていただきました。今ではこれらすべては私の財産です。ありがたいことです。閑話休題。

ところで、北海道情報大学がその建学の主旨としてきた“IT技術者の育成”の根幹をなすIT：情報技術は何に役立つのでしょうか。私は次のように理解しています。

いささか乱暴だとは思いますが、読み・書き・そろばんの技術の修得は我々が社会で生活していくための基本技術ですよね。だってそれ無しに社会生活を営むことはもはや不可能だからです。ITは読み・書き・そろばんとはもちろん異なりますが、それらと等価で重要な技術とみることもできましょう。一々具体例はあげませんが容易に想像できるように、いまやすべての産業分野、研究開発分野、社会生活などではもはやIT抜きではなりたたない事実があるからです。今後、ITはすべての分野の基盤技術となっていくと言っても過言ではないでしょう。

グローバル化問題、少子化問題、資源問題、環境問題など多くの難題を抱えた21世紀を迎え、我が国が今後ますます厳しさを増すであろう国際的競争時代を生き抜くためには、さらなるIT人材育成が必要であると、経産省や経団連などから数多くの報告がなされているのも、ITは役に立つのだということを傍証しているものと思います。

我が北海道情報大学は、字義通り高度なIT人材育成を主目的とする大学ですので、時代の要請にいかに応えるかでしょう。

これまで培ってきた経験、ネットワークなどを駆使し、特に産学連携、高大連携、地域コミュニティとの連携の必要性をも意識しつつ、本学において優秀なIT人材を育成すべく邁進する決意ですが、さてはて如何にそれを行うのか???状態。現実にはきびしいものがありそうです。

平成17年度入学式

4月5日(火)午前10時から、松尾記念館講堂において、平成17年度北海道情報大学入学式が行われました(表紙写真)。入学式の模様は、保護者控室の各教室、そして、全国13カ所にある通信教育部の教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守られる中、800名余りの新入生が、



井野 智 学長

情報大学生として新たな大学生活をスタートさせました。

井野新学長は、「大学はスポーツジムと似ています。ジムは、会費を払えばトレーナーの指導を受け、機器や設備を利用できますが、ジムに行き自ら運動しなければ、体重を減らし、健康を保持することはできません。お金で健康が買えないように、お金で学力を買うことはできないのです。『自分は大学で何を学び、何をしたいか』を自らに問い、しっかりとした目標をもって、『途中どんな辛いことがあっても、絶対に完走するぞ』という強い決意を胸にスタートを切ってください」と新入生に激励の言葉を贈られました。



本学キャンパス

松尾理事長は、「デジタル技術やインターネットをはじめとするネットワーク技術など、情報通信技術の進歩は著しく、地球規模の情報化と国際化は、予想をはるかに上回るスピードで進展しています。21世紀はまさに、地球レベルの『情報革命』の時代であり、新入生諸君は新たな時代の創造に挑戦できる絶好の機会



松尾 泰 理事長

を得たのです。新入生諸君には、時代の方向性をしっかりと見据え、自信と誇りを持って、明日からの学生生活に若々しく、大胆に取り組み、悔いのない充実した4年間を過ごされることを切に希望いたします」と祝辞を述べられました。

その後、新入生代表として、嶋田^{しまだ}光紗^{ありさ}さん(情報メディア学科)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

(総務課)



松尾三郎初代理事長銅像

平成17年度新入生宿泊研修を終えて

学生部長 玉置 重俊



今年度の新入生宿泊研修は、経営情報・情報メディア両学部にて、情報化社会での活躍が期待される新入生を迎え、また中居事務局長、学生委員の教員、一年生各クラス担任の教員、学生サポートセンター職員及び学生実行委員会の学生たちも参加して、4月7日(木)と8日(金)の二日間にわたって実施された。ここに、その実施内容の概略を記して、新入生宿泊研修における活動実態とこの宿泊研修の重要性を広く本学の教職員及び学生諸君にも、十分理解して頂きたいと思う。

さて、7日(木)には、午前9時から、一斉に英語習熟度調査が行われて、その後、新入生たちは、松尾記念館講堂に集合した。鈴木学生委員の司会で、午前10時40分から、まずは学内での全体研修が始まる。ここでは、私から「宿泊研修の意義と学生生活上の諸注意」というテーマで口火を切り、また就職部長の立花先生にも「就職についての心構え」という話をして頂いた。午前11時から、学生実行委員らが司会を務め、新入生たちに、大学の諸行事の簡単な説明をし、その後は、各クラブの部員たちが中心となって、クラブや同好会の具体的な紹介と勧誘が、順次おもしろく行われた。

午後1時過ぎから、新入生たちは、各自のバスに乗り始める。各バスでは、クラス担任の先生が乗車確認をなされた。午後2時前に、16台のバスが定山溪に向い、そして、午後3時半頃には、ホテル・ミリオーネに到着した。新入生たちは部屋割り表を見ながら、各自の部屋に入った。午後4時から、昨年同様に、学生実行委員たちが「先輩とのよろず相談」の時間と場所を用意してくれた。夕食までの時間を活用して、「先輩とのよろず相談」に押し掛けた新入生は、なんと百名近くに上ったと聞いている。新入生たちは先輩から、様々な話が聞けて、きっと有意義で充実した時を過ごしたことであろう。

午後6時から、参加者全員が、ホテル・ミリオーネ地下の大宴会場に集まり、盛大な晩餐会が開かれた。みんなで「同じ釜の飯を食う」という情景は、まさに壮観であり、そして、このあたりから、本学学生としての連帯感や親近感が少しずつ

出始めて、全体の雰囲気も、和やかになってきた。因に、バイキング料理の種類や内容も、

昨年よりは、いささか豪華で、味もよくなっているような感じも受けた。おそらく、ホテル側のサービスとご配慮の賜物であろう。

夕食後、午後8時から、ホテル2階の小・中宴会場を使用して、クラス別ミーティングが開かれたが、クラス担任の16名の先生方には、大変なご尽力とご指導を頂いた。学生相互の自己紹介から始まって、生活時間表やセルフシートも新入生たちに作成させるので、時間の調整が難しかったに違いない。特に、今年は新入生に配布する資料もかなり多く、また大学生活に関して、色々と注意すべきことも山ほどあり、諸先生はさぞかし頭を悩ませたことと思われる。午後11時以降は、学生委員の先生方に、各階の部屋の見回りをして頂いた。

翌日の8日は、午前7時半より、順次バイキング形式の朝食を取り、9時から、昨夜に引き続き第二回目のクラス別ミーティングを実施して頂いた。この二回の詳細なミーティングを通して、新入生諸君は、今後の大学教育と生活に対する認識を更に深めたことであろう。午前10時45分頃から、思い出深い定山溪のホテルを後にして、バスで帰途につき、今年度の新入生宿泊研修は、すべて無事に終了した。

今回の宿泊研修の実実施スケジュールと内容に関しては、確かに一部の見直しと改善すべき点もあるが、新入生に対するアンケート調査では、この宿泊研修が大学生活を始める上で、参考になったと回答した比率が、全体の九割を越えているので、本学が実施するイベントとしては、やはり極めて重要で、有意義なものであると考えている。

なお、この宿泊研修にご協力下さった関係者の皆様には、心から感謝を申し上げる次第でございます。本当に、皆様、色々とお苦勞様でございました。

新任教員

人生を楽しみましょう

経営情報学部

教授

玉山 和夫



欲張りなので、一人で何種類かの人生を送ってきました。製造業の貿易マン、金融界で株式投資のプロ、そして大学教員です。そこで就職・転職のエキスパートから学生のみなさんにアドバイス。職業を選ぶときは収入や目先の待遇ではなく、自分の付加価値を高められる仕事かどうかだけを問うてください。

明治の文人、二葉亭四迷はこう言っています。

「人生の味わいは無限だけれど、それを味わう人間の能力には限りがある」

そうです、人生の味わいは無限なんです。だから味わう能力さえ高めれば良いんです。それが大学で学ぶということではないでしょうか？そして社会に出ても学び続ける人こそが、人生を大いに楽しむことができるのだと思います。皆さんと一緒に私も新たな気持ちで学び直そうとしています。セルフサービスの茶店333研究室に気軽に顔を出してみてください。

下学上達

経営情報学部

教授

中村 忠之



35年ぶりに北海道へ戻ってきました。

北海道大学大学院修了後、日本IBM(株)へ入社し、開発部門や営業部門でビジネスの最前線を永く経験してきました。開発部門では製品やシステムの開発を、営業部門では第一線の営業や新規事業の立上げなど多くの部署を歩み、企画やマネジメントにも深く関わってきました。これからは私の経験を学生諸君にフィードバックしたいと思っています。

落語家、古今亭志ん生は「落語は私がやるのではない、落語はあなた方がやらせてくれる」といったそうですが、「講義は私がやるのではない、講義は学生諸君がやらせてくれる」といえるような、学生諸君の積極的な参加を期待しています。

「e-ビジネス」と「SCM」を担当しますが、孔子の論語に出ている言葉「下学して上達す」(身近なところから学んで次第に深遠な学問に進んでいくこと)をモットーに皆さん方と共に学んで行きたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

着任にあたって

経営情報学部

講師

小西 二郎



4月1日付で、経営ネットワーク学科講師として着任致しました小西二郎(つぎお)です。専攻は青年社会学で、研究テーマは「日本社会の変容と青年のライフコース変容・親密圏の変容」です。この間、北海道教育大学などで非常勤講師をしつつ、北海道大学大学院・研究生として

あいさつ

煉瓦のまち、再び…

情報メディア学部
助教授
新井山 亮



2005年4月1日をもちまして、情報メディア学部助教授として本学に着任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

略歴は、1998年9月で北海道大学大学院工学研究科博士課程を修了、同年10月より3年半、道東の釧路工業高等専門学校に奉職、そして2002年4月より、静岡県袋井市にある静岡理科大学理工学部でのまる3年の勤務を経て、現在に至ります。

生粋の「道産子」を誇る私ですが、前任地静岡での生活、これが実は人生初の「内地暮らし」(といってもたった3年間ではありますが)、まさに「留学」にも匹敵するような数々の貴重な経験を得ることができました。やはり印象深いのは、梅雨や厳しい夏の暑さ、新幹線のスピード、そしてあちこちで出されるお茶の、当り前のように美味しかったことでしょうか。

あと、小学3年生の頃、7カ月と短期間でしたが、元野幌に暮らしておりました。通っていた第2小学校、あの頃と変わらぬ煉瓦造りの佇いを見るたび、時間が戻るかのような素敵な気分になれます。この街で働けることに感謝！

研究を続けて参りました。

本学におきましては、教職課程科目とビギナーズ・セミナーⅠⅡ(1年生のクラス担任)、来年度から実施のキャリアデザインⅠⅡを担当致します。

私は、今、「教員になる」途上にあります。職務を拝命致しましたので、私は「教員である」といえますが、今はその内実を整えている段階です。そうした「教員になる」営みは達成され得ぬことだと受けとめ、その達成を目指すということが肝要と思っております。

至らぬ点が多々あるかと思いますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

新任“フクロウ”よりごあいさつ

情報メディア学部
助教授
三浦 洋



着任してまず驚いたのは、北海道情報大学を囲む自然の豊かさです。朝、研究室の窓辺でウグイスの清らかな声に迎えられると、音楽好きの私は、「芸術は自然を模倣する」という哲学者アリストテレスの句を思い出します。そういえば、アリストテレスの師プラトンが創設した学府アカデメイア(「アカデミー」の語源)はアテネ近郊のアカデモスの森にありました。森と大学が近いのを喜ぶのは、フクロウに譬えられる哲学研究者の習性なのかもしれません。

美しい自然環境は変わりませんが、大学を取り巻く社会環境は年々変化しています。そうであればこそ、地域との連携や小・中・高校の教育活動への参与などを進め、一般社会における本学の存在感をいっそう高めていく必要があると考えます。私は、キャリア教育を担当する立場からも、学生諸君とともに社会の動きに敏感な感覚を持つよう努力したいと思います。

教職員の皆様には様々な場面でお世話になります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

体育祭



実行委員長の菊地貴之君

一瞬も目が離せないバスケットボール



靴飛ばしも真剣に…

競技種目一覧

- ・ソフトボール
- ・サッカー
- ・バスケットボール
- ・男子バドミントン
- ・女子バドミントン



躍動感あふれるサッカーの試合



試合前の緊張の一瞬



表彰式で参加者を讃える玉置学生部長



さあこい!



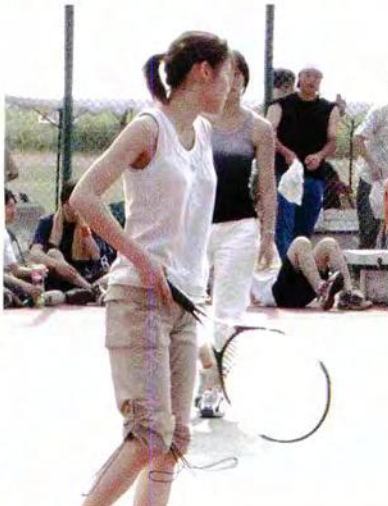
実行委員のみなさんお疲れさま

バドミントンは意外? とパワースポーツ



残念、空振り!

体育祭の華、女子テニス



ひたすらボールを追う…

戦い済んで日が暮れて



第15回

第15回体育祭が6月22・23の両日、開催されました。今回はバドミントンも男女別になり、10種目にわたって競技が繰り広げられました。期間中は天気にも恵まれ、二日目の交流会に至るまで、若さみなぎる体育祭となりました。

- ・卓球
- ・男子テニス
- ・女子テニス
- ・靴飛ばし
- ・アームレスリング



卓球は気軽さが人気の理由

体育館せましと駆けずり回るバスケットボール



あー疲れた…



晴れやかに表彰を受ける勝利者たち

シャトルのスピードはけっこう速い



参加申し込みを待つのも仕事…



文字どおり力と力の勝負！



ああ、これが青春…

楽しみの前には準備が…



いくぞ！

北野道情報大学
部



陰の戦い(?)に徹する実行委員たち

リヨンから何が見えたのだろうか

経営情報学部 教授 穴田 有一

フランス中心部から200kmほど南東へ外れたところに位置し、アルプスやスイスまで車で1、2時間ほどの距離にあるリヨンはフランス第二の大都市ですが、人口でいえば周辺市町を合わせたグラン・リヨンで120万人を少し超える規模です。地下鉄4路線、路面電車2路線、ケーブルカー2路線に加えてトロリーバスやバスが縦横に走り、交通の利便性は大変よい街です。街の西端から立ち上がる小高い「フルビエールの丘」からは、裾に広がる旧市街が見渡せます。旧市街には、王国時代に歴代国王の庇護のもと栄えた15世紀～17世紀当時の商業、絹織物業を偲ぼせる街並みがユネスコの世界遺産として保存されています。古代ローマ時代にはガリアの首都でもあったリヨンには、「フルビエールの丘」の南斜面に円形劇場の遺跡も保存されています。

リヨン中心部にはソーヌとローヌの二つの大河が横たわっています。ソーヌ河は旧市街の南端でローヌ河に合流して、ヴィエンヌ、オランジュ、アヴィニョン、アルルなどの遺跡都市を貫き、マルセイユの西で地中海に注ぎます。中江兆民や永井荷風、遠藤周作らが一時期を暮らしたリヨンは、輝く夏と垂れ込めた雲の冬にくっきりと分かれる季節に象徴されるように、光と影を併せ持つ歴史都市です。第二次世界大戦当時にはレジスタンス活動の中心でもありました。



旧市街に建つAmpèreの像

リヨンの北に隣接する町ヴィルバンヌにある広大なキャンパス、ラ・ドゥーア (La Doua) にクロード・ベルナル・リヨン第一大学 (UCBL1) があります。このキャンパスには国立応用科

先日、私が担当する1年生の必修科目「ビギナーズセミナー」で学生に質問してみました。「私たち教員の仕事は何だと思えますか？」何人かの学生から、「生徒とコミュニケーションすること」、「生徒が無事卒業するように指導すること」などの答えが返ってきました。私はまず「君たちは生徒ではなく学生です」と指摘した後、彼らの回答にあった教育はもちろん大事な仕事であるが、同時に学問研究も教員の大事な仕事であることを説明しました。そして、大学は学問の場であること、大学での学生の勉強は学問の方法を学ぶことであると説明しました。1年生にはまだピンとこないと思いましたが、入学直後から学問に必要な基礎知識や基礎技法を学び、卒業研究に至る一貫したカリキュラムのもとで、学問の方法を身に付けた社会人になることが大学生には求められていると説明しました。一方、そのような教育を行う者として、大学教員には研究活動が求められていると付け加えました。

ここに述べた制度と現実のギャップがこの数年顕著になってきたこと、そして研究・教育活動に加えて多くの校務をこなさなければならない現状に困惑する日常から、半ば逃避するような感覚を胸の内に沈めてフランス共和国、リヨン市郊外にあるリヨン・サンテグジュペリ空港に降り立ったのは今年の9月6日でした。

「絹の町」、「美食の町」、「工業の町」と様々な顔を持つリヨンは、「星の王子様 (Le petit prince)」の著者サンテグジュペリ (Saint Exupéry) や物理学者アンペール (Ampère) の出生地でもあります。さらに、映画発祥の地でもあり、今日普通に見られるスクリーンに投影する形式の映画を発明したリュミエール兄弟 (Auguste Lumière, Louis Lumière) は、この街で生まれました。





学大学(INSA)も立地しており、それぞれの建物が混在しており、大規模な一つの大学のように感じられます。私が滞在した高分子物質・生体物質研究所(LMPB)は、このキャンパスにある国立科学研究センター(CNRS)の研究機関です。この研究所にはCNRSの研究者の他にUCBL1の教授も研究者として所属しています。また研究者のほかに技術スタッフも所属しており、実験装置の保守管理や実験の補助を行っています。技術スタッフの実験装置に関する知識・技能は優れており、研究を速やかに遂行する上で欠かせない存在です。フランス国外から来る研究者も多く、私の滞在期間の前半には、ウクライナ科学アカデミーの研究者が同じ研究室に滞在していました。他にも、アメリカ、ポーランド、モロッコ、チュニジア、ブラジルなどの研究者が長期・短期で滞在して研究を行っています。研究者のほかに大学院生も多数います。大半はフランス人ですが、フランス国外から学位論文のために滞在している大学院生も多く国際的です。

私はこの研究所に約7ヶ月間滞在して、高分子物質のイオン伝導に関する研究を行って来ました。高分子物質を溶融状態から冷却して一定温度に保つと通常は時間の経過とともに徐々に減少する誘電率が、詳細に調べると冷却直後に特定の周波数領域で増大することが最近明らかになり、高分子結晶化の初期過程を研究する上で新しい視点を与える可能性が出てきました。この現象の原因につ

いてはまだ定説はありませんが、私たちは試料内に少量含まれるイオンが初期の微結晶表面に堆積する時間過程が誘電率増大の原因であるという仮説に基づき、現在も研究を継続しているところです。

この間に、研究はもとよりフランス人をはじめ多くの外国人との交流を通して他国の文化に触れたことは、私にとって大きな収穫でした。この収穫が、現実と制度のギャップに苦悩する本学の現状にどのように還元されるのだろうか。それがこれからの課題の一つになります。

最後になりましたが、私の海外研修に際して様々な便宜を図って下さった北海道情報大学の教職員の皆様に心から感謝します。また、私の滞在を快く受け入れて下さったCNRSの研究指導者Dr. Gisèle Boiteux、Dr. Gérard Seytreの両氏を始め研究所のスタッフの皆様には、公私に涉って大変お世話になりました。この紙面を借りてお礼申し上げます。

〔参考〕インターネットで検索すると現代のリヨンについて豊富な情報が得られますが、つぎの書籍からは、やや古い時期のリヨンについて一面を知ることができます。

1. 永井荷風「ふらんす物語」岩波文庫、2002年(初版 1909年)
2. 遠藤周作「フランスの大学生」新風舎文庫、2005年(初版 1953年)



研究室で。左からDr. Sage、Dr. Seytre、筆者

海外研修報告記

経営情報学部 教授 立花 峰夫

年が改まって間もなく、私は成田空港からミュンヘン空港に向けて出発した。70日間(1月17日～3月29日)のミュンヘン大学アジア学部日本センターでの海外研修のためである。このような期間海外に出かけるのは初めてであり、ドイツ語も話せぬ私はとても不安であったが、「センターの先生方は日本語が堪能ですよ」というドイツ語の梅津先生のことばを頼りに出かけた。不安は言葉以外にもいろいろあったが、今考えると、杞憂に過ぎななかつたことばかりである。

「ドイツにおける日本文化、日本近代文学の受

容と研究状況の実態調査」が私の研修テーマである。しかし、私の最初の課題はその日のホテルに無事たどり着くことであ

った。添乗員も現地案内人もない大きな荷物を抱えての旅とあって出発前から心細い。それで予め現地の先生から教えてもらうことにした。Sバーンの切符の買い方やタクシーの乗り方など、空港に降りてからの手順を書いたそのメモがなかったら一体どうなっていたらう。ともかくもチップを忘れず渡して目的のホテルに辿り着くことができた。

翌朝アパートに移り、数日間生活の基盤固めをした後、招聘していただいた日本センターのフォルマー教授の研究室を訪ねた。日本史研究がご専門の先生はにこやかに出迎えて下さり、網野善彦についていろいろお話しされた。その後すぐに、私の研修テーマに関連の深いシュルツ先生を紹介して下さい、図書館の利用もできるように取り計らって下さった。こうして私はミュンヘンでの研修生活を順調に始めることができた。

当初、私は日本センターの図書館で資料調査を中心に進めたが、2月に入った頃、先生方の研究室を訪ね、いろいろお話を伺った。とりわけ、永井荷風・服部撫松・木村荘八のご研究をされているシュルツ先生から、前田愛の都市空間論やテキスト論に関する貴重なご意見を伺うことができたのは何よりうれしいことであった。

その後、学生の日本文化・日本文学への関心の実際を知るために、先生方の講義を見学させて頂くことにした。受講者は日本学専攻あるいは副専攻の学生で、日本留学の経験をもつ学生も多く、日本への関心や日本語能力は私の予想をはるかに超えていた。論理的に説明されなければ決して納得しないドイツの学生達、疑問があれば質問を連発する光景が強く印象に残った。講義やゼミはドイツ語で行われていたが、内容が日本の歴史や文学であったので、私にも概略は理解された。

試験が終了した2月下旬、春休みに入ると、学生や先生方の姿がめっきり少なくなった。私は相変わらず図書館の資料室に足を運んでいたが、社会人対象の日本語集中講座が開講されるというのでそれを見学した。10数年来のこの集中講座は人気が高くリピーターも多いという。参加者も20代から70代と層が厚い。上級クラスで「日本弓道」について発表した母子(母と息子)の姿がとても印象的だった。ああこんな風にドイツにおいても日本の伝統や文化が関心を持たれているのだと、私は深く感じ入った。

研修の終盤の3月中旬、私はミュンヘンを飛び出して近郊のアウグスブルグ、ノイシュバンシュタイン、レーゲンスブルグなどを訪れた。またドイツ北西部のケルン、デュッセルドルフ、ボン、更に北東部のベルリン、ポツダムへも足を伸ばした。ドイツそのものを肌で感じこの目で確かめてみたかったからである。ドイツの新幹線「ICE」の車窓の風景は実に新鮮であった。訪問した街々の風景とともに今も鮮かに目に焼き付いている。

私の研修生活は2カ月半にすぎなかったが、この研修を終えて、異国で実際に暮らしてみるのがどれだけ大きな体験であるかということ痛切に感じた。もう少し早く体験しておくべきだったと、正直なところ悔やまれてならない。



中央が筆者

ピースボート：「人権の学び放題」

経営情報学部 助教授 有道 出人



バチカンにて。
法王終焉の直前

今年3月から4月まで、私は海外に行って参りました。きっかけはピースボートの「地球大学」で日本国内の人権問題について講義をするために招待されたことでした。

ピースボートについて聞いたことはありますか。札幌で「138万円で地球一周の船旅」のポスターをよく見かけますが、教師として参加するとは思いませんでした。「ピースボート」については詳しくはwww.peaceboat.orgでご覧になれますが、簡潔にウェブサイトより紹介します。

『ピースボートは「みんなが主役で船を出す」を合い言葉に集まった、好奇心と行動力いっぱいの若者達を中心に、アジアをはじめ地球の各地を訪れる国際交流の船旅を企画している非営利のNGOです。ピースボートが目指すもの、それは各寄港地のNGOや学生達と交流しながら、国と国との利害関係とはちがった草の根のつながりを創っていくこと。そんな地球市民のネットワークづくりのために、1983年から地球一周など48回のクルーズを企画し、これまでに80カ国以上の世界の港をめぐるしてきました…』

また「地球大学」とは『船で世界各地をめぐるながら、寄港地での交流・検証プログラム、船内での専門家によるレクチャーや討論会を通じて、机の上での学習だけに留まらず、実践的に「平和」を学ぼうという、ピースボート流の「大学」です』となっています(同サイトより)。

そこで私は『水先案内人』として「差別は海外のこのことのみではなく、日本国内でも起きる」を講義しました。大学で研修している分野は「日本の国際化・他文化社会の進展」、及び「ジャパニーズ・オンリー」(明石書店)。和英でも単行本を出版したため、ピースボート以外でも毎年10回くらい外国人・外見差別について講義しております。こうしたことから第48回のクルーズに招かれて(www.peaceboat.org/cruise/report/48th/)、ローマから合流しました。

ピースボートの中で活動は山ほどあります。毎日発行の「ヨツパ」の船内新聞によると、毎日のイベントはおよそ60あります。社交ダンス、マー

ジャンと囲碁、フラダンス、映画、バスケットボールやサッカー試合、太極拳、体操、他国の言語、『飲み隊』(深夜2時まで毎晩和式のバーがあります)、プールサイドで読書とゴロ寝、等々。多くは船客の組み合わせで開催されました。船客の構成はおよそ60%がお年寄り(退職してから世界の旅を楽しみたいご年輩の方が多い)、40%が20才代の冒険を経験したい人です。驚いたことにほとんどの船客は日本人なので、雰囲気と食事生活もほぼ和風でした。後は英語を話す人、スペイン語を話す人、それから韓国語とフランス語でした。

ローマから乗船してからの19日間、私はスピーチ、講演、パネルディスカッションや質疑応答セッションを16回も開催し、数百人に逢いました。のどを使いすぎて声が出なくなり、体はボロボロになりましたが、毎日新しい経験、体験、冒険でした。幅広い年齢の研修者と一緒に意見交換ができたり、フランスのマルセイユ、スペインのラスパルマスやジャマイカのモンティゴ・ベイにも入港し住民と触れることもできました。結局ジャマイカで下船して埠頭から敬遠している船を見ていて泣き出しました。いつの間にか終わった、と感じました。

ななかまど誌で私の経験と感想を述べるスペースがないので、英語で日誌を付けました。

www.debito.org/peaceboatreports.html

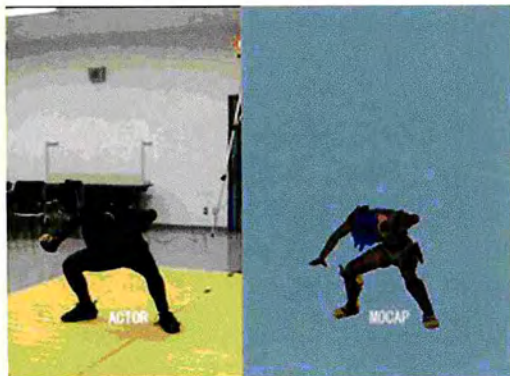
ピースボートの船自体も面白いです。クルーズシップとして歴史が長いです。イギリスで製造され(英語ですが写真付き経緯はwww.maritimematters.com/topaz6.html)、のびゆく50年に渡って航海するうえ(本年7月から半世紀記念)、それぞれのオーナーと国に引き渡されました。現在ギリシアで登録されてクルーはインドネシア人とブルガリア人が多いです。合計1,000人以上が乗船でき、非常にタイトなコミュニティだと感じます。よって、私はピースボートの代表ではありませんが、情報大学の皆さんに参加することを心から推薦します。3カ月半の船旅をやってみると人生が変わります。参加させていただき、どうもありがとうございました。

ジャマイカにて。
これが朝一番なら昼飯は要らん！



金ゼミでは主にデジタル画像(2次元および3次元)の扱いを2年間学びます。前期では、様々なテーマを中心に基礎的なゼミが行われます。この基礎ゼミから3年生は当ゼミのテーマ内容を把握することができます。

具体的なテーマとしては、3年前から逸早く導



入している「モーションキャプチャー」(今や人間の動きを表現するための使われている機材でCGキャラクターな

どのリアルな動きをつけるため、人間の体に取り付けたセンサーでその動きを読み取ってデータ化する装置)、「3次元非接触形状装置」(3次元高速スキャンすることで物体の形状を詳細で表現できる装置)、「3D専用ソフト」(業界で実用されているソフト群:3dsMax、MotionBuilder、LightWaveなど)を用いたものであります。また3年生と4年生との共同ゼミによって、同じゼミの構成員として先輩と後輩とのコミュニケーションやゼミ内の規則など将来社会人としてのマナーも学びます。

前期のゼミが終了すると、当ゼミ恒例の夏の勉強合宿で3年生は一層高いレベルを図ります。し

かし、ほとんどのテーマ内容が限られたゼミ時間では習得できないので、強制的な動きより自主的な動きが望ましいです。後期から3年生は3週間で1回、自分のテーマについて中間報告が実施されます。3週間で自分のテーマについて何をやったか、得たか、用いたかななどを報告書にまとめてプレゼンテーション形式(PowerPointを利用する)で発表します。

最後に、当ゼミで重視することは何か想像外のことが起こった時とか、あることを何とかしなければならぬ時などに、その原因は何なのか、どうしたら解決できるのか、自分なりに納得できるまで調べ、また、それに関することを勉強し、決して中途半端に問題を後に残さない習慣を身につけることです。卒業をするとき、「自分は2年間、一つのことをとことん頑張った」という満足感と自信を持って、是非卒業して欲しいと思います。卒業研究には結果の良し悪しことより、そのプロセスが大事です。



ゼミ 紹介

金ゼミ

担当教員 金 義鎮

豊田ゼミ

担当教員 豊田 規人

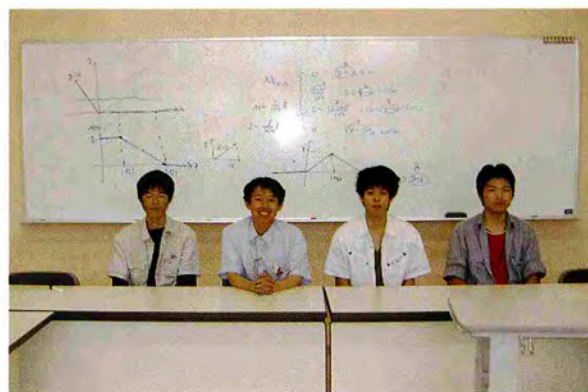
豊田ゼミは毎年テーマが違い、今年の4年生は『現代暗号とマジックプロトコル』というテーマでゼミを進めています。3年では暗号に関する勉強をし、4年で各自暗号理論に関する卒論テーマを決め、卒業論文に纏めています。

講義概要を読んでも判る通り、卒論の単位を落とす学生が毎年いるそうです。そのせいかゼミ生は5人しかおらず、学習を怠ることはできません。しかしそれが幸いし、テーマから資料探しまでしっかりとサポートしてもらえるので、今年は誰も落とさないと個人的に考えています。

一口に暗号と言っても、用途や目的、強度などで様々です。研究内容を説明し、他のゼミ生や担当教員に理解してもらうのは大変難しく、それを理解する側もある程度の知識を持ってなければ

ならないという点で、暗号という共通のテーマを各自持っているというのは他のゼミと比べて決して簡単ではありません。

強迫観念も伴い、皆、懸命に取り組んでいます。



クラブ紹介

硬式野球部

主将 吉田 拓



硬式野球部は、4年生1名、3年生5名、2年生6名、1年生10名の計22名で活動しています。

現在、硬式野球部は、札幌学生野球連盟(1部リーグ～3部リーグ)の3部リーグに所属しています。

私は、入学以来、今に至るまで、3部リーグ戦での優勝決定戦を3度経験しました。その3度全てに負け、内、2度がサヨナラ負けという悔しい結果に終わっています。いずれの大会も優勝校との技術の差はそれほど感じませんでしたが、これほどのチャンスがありながらもなぜ、いつもあと一步で勝てないのかと考えた結果、相手の方が上を目指す「気持ち」の面で我々より優っていた、との結論に至りました。やはり勝つ上で重要なのは、技術だけでなく、選手一人ひとりの上を目指す「気持ち」であると今回の春季リーグ優勝決定戦での敗戦で改めて感じさせられました。

今、チームに必要とされるのは、選手全員が、上を目指し、貪欲に技術を磨く強い「気持ち」を持つこと。心から野球を楽しみ、堅い「チームワーク」を作ることの2つです。

私が主将になった今、選手達に過去の悔しさを忘れさせず、強い気持ちを維持できるようにチーム作



りを心がけなければなりません。そのためにまず求められるのは、普段から明確な目標を掲げ、気を引き締めて練習に取り組むことです。単純なことですが、その繰り返しプレーへの自信に繋がり、上を目指す強い「気持ち」や堅い「チームワーク」に変わっていくものと考えます。

目標は創部以来成し得なかった2部リーグ昇格ですが、さらに上の1部昇格をも見据えて努力を重ねます。

9月に開催される秋季リーグ戦まで残り2カ月。秋季リーグ戦では、チーム一丸となって情報大の力を見せていきます。

最後に、日頃から我々の活動にご支援ご協力をお願いしております全ての方々に感謝致します。

平成17年度

札幌学生野球連盟3部春季リーグ戦結果報告
日時：平成17年5月11日(水)～5月18日(水)
場所：江別市野幌運動公園硬式野球場

5月11日(水)						
北星学園大	0 0 0	1 0 0	2 0 0 0	3		
道情報大	0 2 0	0 1 0	0 0 0 1	4		
5月12日(木)						
北医療大	3 0 0	0 3 0	0 0 0	6		
道情報大	0 0 0	0 0 0	0 2 0	2		
5月16日(月)						
道文教大	0 0 0	0 0 0	1	1		
道情報大	1 1 4	0 1 1	×	8		
5月17日(火)						
樽商大	0 0 1	1 0 0	1 0 0	3		
道情報大	0 0 0	0 0 0	3 0 1	4		
5月18日(水)優勝決定戦						
道情報大	0 0 0	0 1 1	0 0 0	2		
樽商大	0 0 1	0 0 0	1 0 1	3		

	小樽商大	道情報大	北医療大	北星学園大	道文教大	勝	負	分
小樽商科大	×	○	○	○	○	3	1	0
道情報大	○	×	×	○	○	3	1	0
北医療大	×	○	×	×	○	2	2	0
北星学園大	×	×	○	×	○	2	2	0
道文教大	×	×	×	×	×	0	4	0

ドイツ体験記

経営学科 第9期卒 中村 祐美

私は2001年3月に情報大学を卒業後、同年10月よりドイツ国立ジューゲン (Siegen) 大学留学、そして今春3月よりSchenker Deutschland AGデュッセルドルフ支店で働いています。これまでの3年半以上に渡るドイツ生活について書いてみたいと思います。

留学先としてドイツを選んだのは、海外留学が一般的になり、特に英語圏では当たり前のようになっているので、英語圏以外の国にチャレンジしたいと思ったからです。環境問題に興味があり、ドイツの大学は授業料がタダだったこともドイツ留学を志した理由になります。情報大では勿論ドイツ語を選択。2年の夏には、自分でチケットやホテルを予約して2週間ドイツとオーストリアを旅行しました。

ゼミは環境会計ゼミに入り、卒論は「ドイツと日本のリサイクル事情」というテーマで書きました。留学を考えていたので就職活動はせず、ドイ

ツ語の勉強とバイトをしていました。情報大を卒業後、いよいよ留学ですが、交換留学などと違い、まずは願書を取寄せる事から全て自分でやらなければならない、予想以上に大変でした。運良く幾つかの大学から入学許可が届き、その中からジューゲン大学を選びました。日本人が少なそうという理由からでしたが、予想通り、人口10万人くらいのジューゲンには、毎年慶応大学と金沢大学から来る交換留学生の二人以外、日本人はほとんどいませんでした。日本語を忘れてしまうと大げさですが、1カ月程日本語を話さないでいると、実際、日本語がスナナリ出てこなくなります。そのようなドイツ語漬けの毎日でした。

先ず大学付属のドイツ語コースに入り試験に備えました。私立の語学学校が沢山ありますが、大学付属のコースは無料で学生数に制限があり、大学生と見なされるので入るだけでも大変です。ドイツ語コースでは沢山の外国人留学生と知り合う



左がジューゲン市長、右がジューゲン大学学長、筆者は右側

ことができ、今でも最高の友達です。お互い慣れないドイツ語でも色々な事について話をし、様々な国の文化について知ることができました。ドイツ語試験(DSH)合格後は晴れて正規の大学生となり、単位を取っていきます。しかしドイツ語試験に受かって、ドイツ人学生同様に単位を取っていくことは簡単なことではありません。レポートは必ず友達にドイツ語を添削してもらってから提出しました。

大学での勉強はかなりハードでしたが、ドイツでの学生生活はとても楽しいものでした。平日は勉強し、週末は友達と一緒にご飯を食べたりパーティーに行ったり、「Sushi」がブームで私もよく巻き寿司を作りました。大好評で作り方を教えたりもしました。大学に外国人課があり、留学生の為に催し物が沢山あります。その中でも、大学、市、そしてジエゲンにある企業の経営者が集まるイベントがあり、私と慶応の学生が留学生代表でお茶会をやりました。翌日この事が新聞に載る位お茶会は大成功で、このイベントがジエゲンでの一番の思い出です。

情報大での4年間もあっという間でしたが、ドイツでも時間が経つのが本当に早くあっという間に3年半が経ちました。この3月からデュッセルドルフで働いています。ドイツでは今、失業率が10%を超え、就職は日本より厳しいです。デュッセルドルフは地理上、ヨーロッパの基点として多くの日系企業の支店があります。日本人学校もあり、ジエゲンとは違いドイツの中の小さな日本といった感じです。私が入社したのはSchenker

Deutschland AG /Japan Division。日本では西濃運輸と合併しているセイノー・シェンカー社で、海上、航空の輸出入業務をしています。Japan Divisionとはいえ、日本人は私以外二人しかいません。取引先の企業は日系企業が多いです。ドイツ以外にもスペインやフランス、東欧などヨーロッパ各地への輸送があり、ドイツ語、日本語、英語と言葉だけでも大変な毎日です。船や飛行機のBooking、輸入(ドイツへ)貨物の通関作業等の業務をしています。

ドイツと日本に何か関係のある仕事をしたいと思っていたので希望通り就職できたと思います。今は、仕事を覚えるのに必死の毎日です。仕事でPCは必須です。情報大を卒業して良かったと思うことが多々あります。言葉は単なる手段にすぎず、よっぽど話せない限りそれだけで職はありません。私の場合、情報大で簿記などの経営学、PC能力の情報学を学び、ジエゲン大学でも経営学科に在籍しました。ドイツ語力では独文学科の学生の方が上でも、私の方が余り苦労せず就職できたと思います。

後輩の皆さんへのアドバイスは、4年間は本当にあっという間なので1日1日を大切に過ごしてもらいたい、ということです。そして長期の休みを取れるのは学生のうちだけなのでその間に1週間でもいいから外国へ行ってみることをお勧めします。日本の良い所も逆に分かります。色々な経験を沢山して悔いの残らない学生生活を送って下さい。

中村さんのこと

経営情報学部 助教授 梅津 真

経営学科第9期生の中村祐美さんは、在学中、ドイツ語だけでなくコンピュータ関連、環境問題など何でも意欲的に取り組んでいた印象があります。独検3級に合格して夏休みにドイツを回り、そのレポートを学内報に載せるなど、当時からEUには大きな関心を持っていたようですが、将来ドイツの企業に就職したいという希望を聞いた時は、ただでさえドイツは失業率が高いので、かなり難しい

だろうというのが正直なところでした。しかし情報大を卒業してから独力でジエゲン大学に入り直し、元気に頑張っているという連絡を受けた時は、夢を実現してくれそうな予感がしました。そしてこの4月、ドイツの一流企業に就職したと聞いて、「やっぱり」と納得すると同時に、世界を股にかけて活躍する教え子がいることを誇らしく思った次第です。現地での仕事は生易しいものではないようですが、これからも持ち前のガッツとチャレンジ精神を発揮して、情報大の後輩達の良い手本になってもらいたいと願っております。



PHOTO ALBUM

第14回 YOSAKOI ソーラン祭り

6月8～12日、第14回目を数えるYOSAKOI
ソーラン祭りが開かれ、我が『江別まっこと
ええ&北海道情報大学』も参加しました。

今年は本学から12名が参加、勉学の合間を
縫っての練習を重ねながら、本番ではチーム
一体の呼吸のあった踊りを披露しました。





YOSAKOIソーラン北海道情報大学学生実行委員会

学生実行委員長 3年 萩野 哲歓

YOSAKOIソーランチーム「江別まっことええ&北海道情報大学」で踊り子3年目の萩野です。北海道のとても大きなお祭り、YOSAKOIソーラン祭り。今年もたくさんの人達で賑わいました。

私も踊り子として参加をし、数ヶ月前から一生懸命練習に励んできました。そのおかげもあり、沢山の人が見ている前で、楽しくカー杯踊ることができました。観客の方の歓声や拍手が、最高に気持ちよかったです。ひとつのことに一生懸命打ち込んだ達成感がありました。今後も7月の支部大会と江別鳴子祭りを初め、まだまだたくさんのお祭りに参加の予定です。

YOSAKOIソーラン本当に楽しいですよ。皆さんも一緒に踊りましょうよ。



北海道情報大学後援会について

北海道情報大学後援会は、平成17年3月31日を以て解散し、平成17年4月1日からは新たに「北海道情報大学保護者の会」として発足し、後援会で進めていた事業は引き続き実施することと致します。

北海道情報大学後援会は、平成3年に発足以来、教育研究及び福利厚生活動への援助等本学の発展に多大な貢献をしてまいりました。

しかしながら、後援会としての使途経費に関する文部科学省からの指導及び監査法人からの指摘を受け、今後の在り方について、平成16年5月19日の第1回役

員会、平成16年8月25日の臨時役員会、平成17年2月16日の第2回役員会において審議を重ねてきました。

その結果、現行の後援会費納入制度を本学の学納金(大学諸費)に組み入れる方式に改め、これまで同様、事業を継続実施することとして、組織としての北海道情報大学後援会を平成17年3月31日を以て解散し、平成17年4月1日からは新たに「北海道情報大学保護者の会」として発足することが役員会で承認されました。

次に、平成16年度監査報告を説明します。

監査報告書

北海道情報大学保護者の会 殿

平成17年4月21日

住 所 江別市西野幌59-2
 会計監査 立花 峰 夫 印
 住 所 江別市西野幌59-2
 会計監査 木下 篤 史 印

私共は、北海道情報大学後援会の平成16年4月1日から平成17年3月31日までの帳簿及び決算書について監査を行った。

この監査に当たって、一般に妥当と認められる方法に準拠し、通常、実施すべき手続きを使用した結果、私共は帳簿が領収書に基づき秩序正しく適切に記帳され、且つ決算書がその帳簿に基づき適正に表示されているものと認める。

平成16年度決算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

北海道情報大学後援会

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
I. 収入の部	円	円	円	
1. 会費	7,800,000	7,800,000	0	新入生 384名 @20,000 3年次編入生 5名 @20,000 転籍者 1名 @20,000
2. 預金利息	50	74	24	
3. 前期繰越	6,079,538	6,079,538	0	
合 計	13,879,588	13,879,612	24	
II. 支出の部				
1. 北海道情報大学 に対する寄付金	8,256,080	13,733,512	△5,477,432	
2. 事務費	50,000	10,100	39,900	
3. 予備費	5,573,508	136,000	5,437,508	
合 計	13,879,588	13,879,612	△24	

学 生 サ ポ ー ト セ ン タ ー よ り

■まだ内定を得ていない4年生へ

まだ内定を得ていない4年生は、ぜひ学生サポートセンターへ相談に来て下さい。学生サポートセンターでは大学に来ている求人はもちろん、その他の求人についての斡旋も行っています。また、就職活動における悩み相談、面接のレッスン、履歴書の書き方指導等も行っています。本年度は求人が前倒しになっている傾向がありま

すので、1日でも早く活動することが内定への近道になることは間違いありません。実際に内定率も昨年度より約10%アップしており、6月末現在で3人に1人は内定を得ています。秋、冬と時期が遅くなると、就職活動も非常に厳しいものとなります。内定獲得まで、最後まで諦めずに活動を続けていきましょう。

■学部3年生・大学院1年生対象

【就職指導スケジュール】

5月から実施しています就職指導スケジュールの後期の予定は以下のとおりです。この就職指導（キャリアサポート）にきちんと出席した学生は、早い時期に内定をもらい、希望する会社に入ること

ができるというデータがあります。会社訪問等の実際に行動しなければならぬ就職活動は遅くとも来年の2月からスタートしますので、そのための準備としてこの就職指導は休まずに出席しましょう。

【後期】		就職指導・講演・模擬試験の内容等
日	程	
9/30(金)	5講目	第4回就職説明会(就職希望登録・資料請求)
10/7(金)	5講目	第5回就職説明会(やりたい仕事を見つけよう)
10/8(土)	午後	公務員試験対策講座
10/14(金)	5講目	SPI試験
10/21(金)	5講目	第6回就職説明会(履歴書作成指導)
10/28(金)	5講目	第7回就職説明会(自分について表現してみよう)
11/4(金)	5講目	論作文試験
11/11(金)	5講目	第8回就職説明会(アクションを起こそう実務編)
11/12(土)	終日	SPI解き方講座
11/18(金)	5講目	第3回一般常識テスト
11/25(金)	5講目	第9回就職説明会(アクションを起こそうマナー編)
12/2(金)	5講目	第4回一般常識テスト
12/9(金)	5講目	就職特別講演&就職体験談
12/16(金)	5講目	第10回就職説明会(面接試験対策)
H18/1/12(木)~1/13(金)		第1回履歴書用写真撮影及び女子学生メイク指導
1/13(金)	5講目	第11回就職説明会(就職活動直前ライブ)
1/30(月)~2/1(水)		個人面談
2/1(水)		第2回履歴書用写真撮影



校内新施設紹介

このほど学内にカフェテリアが新設され、それにともない、周辺の食堂や売店も一部改修されました。

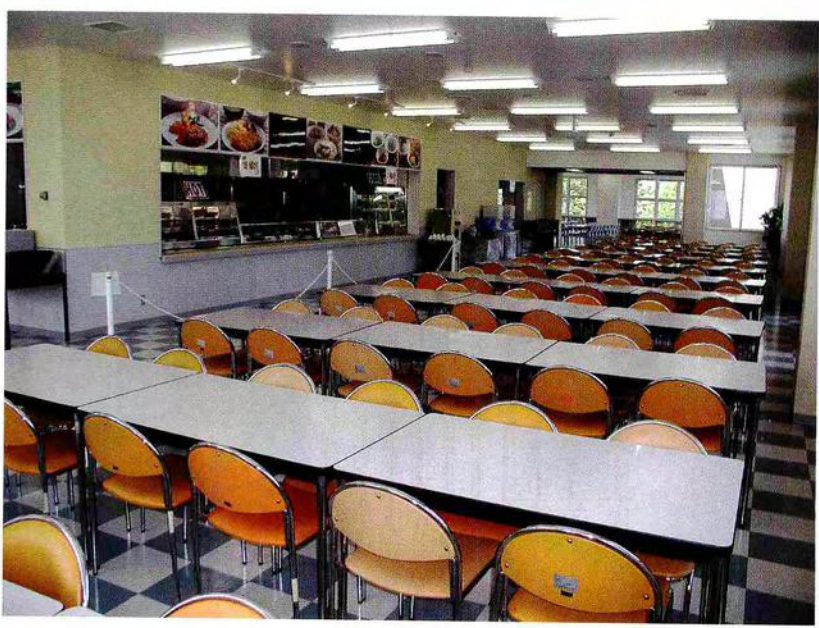
ここでは、その施設の一端をご紹介します。



新たに設置されたカフェテリア(上)とその入り口(右)



明るい雰囲気のある食堂(右)。メニューも豊富(下)、入り口で食券を購入して利用する(左)。



売店は品揃えも十分(右)。学生の好きなカップラーメン用のお湯も十分用意されている(左)。



◆◆ 教職員の動向 ◆◆

4月1日付発令

<教 員>

(就 任)	学長	井野 智
	副学長	嘉数 侑昇(4月1日付採用)
	経営情報学部長	林 雄二
	情報メディア学部長	新保 勝
	学生部長	玉置 重俊
	情報センター長	中岡快二郎
	通信教育部長	外山 清高
	経営ネットワーク学科主任	富山 隆
	システム情報学科主任	中村 鎮雄
	情報メディア学科主任	中岡快二郎
	教養主任	加藤喜久子
(採 用)	特任教授	石井詩都夫(システム情報学科)
		吉田 勉弘(情報メディア学科)
		若林 久二(情報メディア学科)
	教 授	中村 忠之(経営ネットワーク学科)
		玉山 和夫(経営ネットワーク学科)
	助教授	三浦 洋(情報メディア学科)
		新井山 亮(情報メディア学科)
	講 師	小西 二郎(経営ネットワーク学科)
	客員教授(非常勤)	金井 一頼(大学院経営情報学研究科)
		多田 義昭(大学院経営情報学研究科)
(昇 任)	教 授	上原 士郎(情報メディア学科)
		田城 徹雄(情報メディア学科)
	助教授	谷口 文威(経営ネットワーク学科)
		斎藤 一(情報メディア学科)
		中島 潤(情報メディア学科)
		山北 隆典(情報メディア学科)
		金 義顕(情報メディア学科)
(配置換)	経営ネットワーク学科	藤家 壯一(システム情報学科)
	システム情報学科	浪田克之介(経営ネットワーク学科)
		Simon Thollar(経営ネットワーク学科)
	情報メディア学科	平子 玲子(経営ネットワーク学科)
		松井 伸也(システム情報学科)
		石井 勝(システム情報学科)
		高野 俊夫(経営ネットワーク学科)
		Charles M. McLarty(経営ネットワーク学科)

<職 員>

◇法人本部◇

法人本部事務局次長 横田 敏雄(財務課長兼総務課長)

◇大学事務局◇

(兼 務) 事務局次長 風間 國康(総務課長)

(就 任) 学生サポートセンター事務室長 吉田 嗣治(通信教育部事務部長)

(採 用) 総務課 黒田 修司

(昇 任) 広報室係長 河野 朝子

(配置換) 通信教育部事務部庶務係長 富樫 恵一(通信教育部事務部)

通信教育部事務部教務係長 高田かおり(通信教育部事務部教務第二係長)

通信教育部事務部学生係長 高清水靖和(会計課用度係長)

通信教育部事務部学生係長 河村 信司(通信教育部事務部教務第一係長)

広報室長 大橋 正典(法人広報室長)

広報室課長 野原 悠久(法人広報室課長)

広報室係長 小松田昭人(法人広報室係長)

広報室係長 楢物 敏昭(法人広報室係長)

広報室 松尾 俊樹(法人広報室)

広報室 繁永恵理子(法人広報室)

◆◆ 4月～6月主要行事 ◆◆

◇法人本部◇

4月25日(月)～27日(水) 札幌中税務署「源泉所得税調査」

5月17日(火)～21日(土) 監査法人トーマツ「平成16年度決算監査」

26日(木) 理事会

◇大 学 院◇

4月 5日(火) 入学式・新入生ガイダンス

12日(火) 特別科目等履修生説明会

23日(土) 推薦入試(教育センター長推薦)

28日(木) 研究科委員会

5月21日(土) 推薦入試

6月13日(月) 研究科委員会

◇大 学◇

4月 1日(金) 辞令交付

4月 5日(火) 平成17年度入学式
6日(水) 新入生ガイダンス
7日(木)～8日(金) 新入生宿泊研修
8日(金) 経営情報学部教授会
9日(土) 2・3学年生ガイダンス
11日(月) 前期開講
12日(火)～15日(金) 定期健康診断
15日(金) 情報メディア学部教授会
22日(金) 全学教授会

講演会「スタジオリブの知的財産戦略」
5月13日(金) 経営情報学部教授会
20日(金) 情報メディア学部教授会
21日(土) 公開講座「第1回 体験! ホームビデオ編集」
情報通信月間参加行事「ユビキタス社会とICTタグ」
同「電波と人工衛星」(会場:情報技術研究所)

27日(金) 全学教授会
31日(火) 保護者の会役員会
6月 3日(金) 講演会「事業創造のダイナミズム」
(本学客員教授 大阪大学大学院教授 金井一頼先生)

4日(土) 公開講座「ユビキタス社会とICTタグ」(会場:札幌サテライト)
10日(金) 創立記念日
11日(土) 公開講座「第2回 体験! ホームビデオ編集」
経営情報学部教授会
情報メディア学部教授会

18日(土) 公開講座「第3回 体験! ホームビデオ編集」
22日(水)～23日(木) 体育祭
24日(金) 全学教授会
25日(土) 公開講座「第4回 体験! ホームビデオ編集」

◇通信教育部◇

4月21日(木) 名古屋教育センター大学見学

◆◆ 広報活動 ◆◆

<北海道情報大学通信教育部説明会; 本学独自>

5月:1会場(小倉)

6月:3会場(広島、福岡、鹿児島)

<進学相談会>

5月:北海道12会場(枝幸、紋別、網走、札幌(2)、江差、八雲、帯広(2)、旭川(2)、函館)

青森県 3会場(八戸、青森、弘前)

岩手県 1会場(盛岡)

秋田県 1会場(秋田)

6月:北海道16会場(北見、釧路、小樽、苫小牧、室蘭、札幌(3)、函館、浦河、千歳、稚

内、名寄、留萌、中標津、根室)

青森県 1会場(青森)

岩手県 1会場(盛岡)

新潟県 1会場(新潟)

東京都 1会場(東京)

<高校内進学ガイダンス>

4月:北海道 2校(千歳北陽高校、札幌大谷高校)

5月:北海道 3校(釧路東高校、駒沢大学附属苫小牧高校、釧路北高校)

6月:北海道14校(苫小牧工業高校、札幌北斗高校、帯広大谷高校、札幌新川高校、

札幌篠路高校、苫小牧中央高校、伊達高校、札幌創成高校、旭川

竜谷高校、札幌稲雲高校、当別高校、駒沢大学附属岩見沢高校、

クラーク記念国際高校(大通りキャンパス)、石狩翔陽高校)

埼玉県 1校(武蔵越生高校)

<高校訪問>

4月:北海道 57校

5月:北海道 272校

6月:北海道 78校

<オープンキャンパス>

5月29日(日) 北海道内主要都市5会場(帯広、釧路、北見、旭川、函館)

6月26日(日) 本学

◆◆ 主な来学者 ◆◆

5月24日(火) 白樺学園高校(教員2名)

25日(水) 北海道栄高校(生徒31名、教員2名)

6月 6日(月) 白老東高校(総合学習:生徒2名)

15日(水) 様似高校(教員2名)

15日(水) 老人クラブ野幌明笑会(36名)

21日(火) 八戸東高校(教員2名)

23日(木) とわの森三愛高校(志望校体験ツアー:生徒8名)

24日(金) 虻田高校(キャンパス見学会:生徒5名)

30日(木) 野幌高校(進学体験学習:生徒12名)

本州は暑い日が続いているようであるが、北海道はまだまだ涼しい日が多い。「夏が来た!」という高揚感というか、解放感を味わう機会が乏しいのは残念である。それでも、夏は夏。本誌をお読みの皆さん、大いに夏を楽しみましょう。